

平成 17 年 7 月 1 日
日本原子力発電株式会社



敦賀発電所 2 号機の原子炉起動について

敦賀発電所 2 号機（加圧水型軽水炉：定格電気出力 116 万キロワット）は、6 月 9 日に原子炉を手動停止して、ホウ酸注入系統^{*1}のテストコネクタ弁^{*2}の下流にある閉止栓（スウェージロック）からの漏えい原因を調査し、対策を完了しております。

また、本件に関し、関係機関への通報連絡が遅れたことにつきましては、福井県および敦賀市などから本件についての改善の申し入れを受けており、原因と改善策等を取りまとめた報告書を 6 月 29 日に福井県および敦賀市に提出しております。

* 1：ホウ酸注入系統

非常用炉心冷却設備の一つで、事故時に中性子を吸収するホウ酸を原子炉に注入する系統

* 2：テストコネクタ弁

定期検査時の試験や水抜きの際に使用する弁

（平成 17 年 6 月 8 日、10 日、23 日、29 日発表済）

その後、6 月 30 日に敦賀発電所をはじめ福井地区において、副社長から通報連絡遅れの原因と改善策および地域との信頼に係る全社的な意識改革の促進のための社長告示について所員に説明するとともに、意見交換を行い、発電所運営において徴候を確認した時点での速やかな通報連絡など、通報連絡の三原則の周知徹底を行いました。

また、本店、東海地区でも副社長による説明会等を開催するなど、全社員に同様の周知徹底を行いました。

さらに、この三原則の趣旨を徹底するため、改善策等については継続して実施し、その定着状況については、今回設けた対策委員会で、確実に検証していくこととします。

今後、7 月 2 日 0 時頃に原子炉を起動した後、7 月 3 日 2 時頃に発電を再開する予定です。

別紙：敦賀発電所 2 号機の通報連絡遅れに関する改善策の実施状況

以 上

敦賀発電所２号機の通報連絡遅れに関する改善策の実施状況

【トップ自らが先頭に立った全社的な意識改革の促進】

①地域との信頼に係る全社的な意識改革の促進のための社長告示

私たち自身が常に地域の一員であることを忘れずに、緊張感を持って業務運営にあたるよう、６月２９日に全社員に対し社長告示をもって、安全協定の精神の再徹底を指示した。

②経営層と所員との意識改革のため意見交換

経営層が本店、敦賀地区、東海地区において、幹部をはじめ社員と社長告示の主旨について意見交換を行った。なお今回の説明会に参加できなかった社員については、各所属長より説明を行っている。

- ・敦賀発電所：６月２９日（水） 副所長（２０５名）
 ６月３０日（木） 副社長（２２７名）
- ・敦賀地区本部：６月３０日（木） 副社長（３４名）
- ・東海地区：６月２９日（水） 副社長（９４名）
- ・本店地区：６月２９日（水） 副社長（２６０名）

【組織的仕組みや組織間コミュニケーションの改善】

③技術渉外担当が通報連絡の要否判断に助言しやすい体制

日頃自治体等との対応を行っており、地域の視点に対する理解の深い技術渉外担当を、運営管理グループから分離し、通報連絡の要否の判断に対する異なる視点からの意見の提供を促進するため、７月１日付で１名を総務室に発令した。

④地域対応経験者の通報連絡関係職位への計画的配置

発電所業務運営へ「地域の目線」を導入するよう、地域対応の経験と適性を持つ社員２名を、所内の通報連絡に関係した職位へ７月１日付で発令した。

⑤所外から指導・助言できるよう連携強化

敦賀地区本部のメンバー（敦賀/福井）が６月２９日以降、敦賀発電所の毎朝の所内会議にＴＶ会議で参加している。

以 上



副社長による所員説明会（６月３０日・敦賀発電所）